

被害発生確率を下げよう～家具の固定方法～

うごくものの固定

①耐震粘着マット(床固定)

ダイニングテーブル・ベッド・テレビ台など

- ・底部に耐震粘着マットを貼り付ける
- ・重量やマットの種類で、必要枚数が異なるので注意する



②キャスターロック+チェーン/ベルト

コピー機など

- ・転倒・移動軽減構造(キャスターロック、キャスターセミロック、アジャスター固定等)を使用し、チェーンやベルトで、背面側上部・下部などを壁に固定する



- ・しっかり固定するには機器の取付箇所、機器全体上下接合部の強度が必要。
- ・最適対応が重要となり、対応方法がメーカーや機種ごとに異なる場合があるため、販売店等に相談を。

とぶものの固定

⑤ラッチ

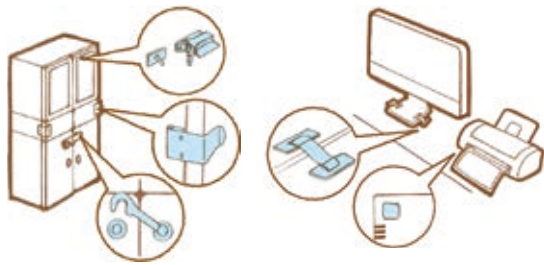
食器棚・冷蔵庫・キャビネット類・書庫など

- ・開き戸・引出しにラッチを付け、収納物の飛び出しを防ぐ
- ・飛び出し防止ゴムや滑り防止布を敷くのも効果的

⑥ストラップ式/耐震粘着マット

PC類・レンジ・テレビなど

- ・電子機器類はストラップ式で固定する
- ・耐震粘着マットは強度を確認して選ぶ



たおれるものの固定

③L字金具(壁固定)

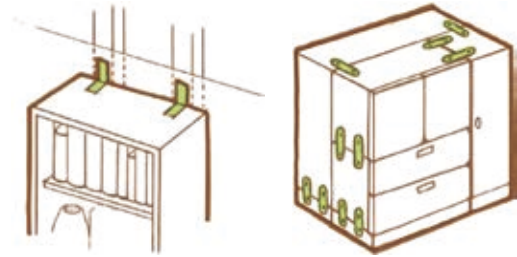
タンス・食器棚・冷蔵庫・サーバーラックなど

- ・L字金具を使い、壁に固定する
- ・固定位置は柱や間柱・胴縁など丈夫な部分を選ぶ

④平金具(連結)

キャビネット・タンス・ガラス戸棚・書庫など

- ・平金具を使い、隣や背中合わせの家具と連結する



おちるものの固定

⑦ヒートン+チェーン(天井固定)

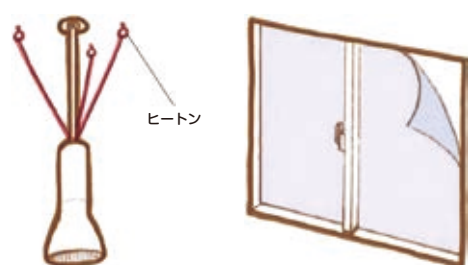
照明・額など

- ・強い力がかかるため、固定点の強度が重要
- ・ヒートンを使用し、チェーンや紐で天井の丈夫な部分と固定する

⑧飛散防止フィルム

ガラス戸棚・食器棚・ガラス窓など

- ・まず、ガラス戸棚・食器類など家具自体を固定する
- ・ガラス部分全体に飛散防止フィルムを貼る



出典：The Great Japan Shake Outホームページ



近年の地震では、負傷した人の3割から5割が家具の転倒や落下が原因となっています。「怪我をしてしまう」「避難路が塞がれてしまう」と助けが来るまで身動きが取れなくなり、火災が発生した場合に逃げ遅れる原因となります。さらに、夜に地震が起き、メガネや懐中電灯などが家具の下敷きになった場合、暗闇の中の行動が難しくなります。家具は必ず固定し、避難路を塞がないように配置しましょう。

また、地震によって電気や水道、道路などのライフラインが寸断される恐れがあります。地震に限らず、災害時に必要な食料・飲料水、懐中電灯、ラジオといった備蓄品を準備し、自宅で過ごせる用意と万が一の避難に備えた用意をしておきましょう。

詳しくは、総務課 防災係まで。



※この図は中標津町防災ハンドブックP13に掲載しています

上の図に示すように、本町は標津断層帯や周辺海溝で発生する地震の影響を受ける地域です。平成6年10月4日には、北海道東方沖を震源とする最大震度6の地震により大きな被害を受けました。町は、このことを教訓とするため、10月4日を町の防災の日としています。

備蓄をしよう～備蓄必要量と循環備蓄～

大地震の発生を想定した場合、一般的な備蓄量は、**1人につき3日分**と言われています。ここでは3日分の備蓄の例をご紹介しますので、ぜひご家庭での備蓄の参考にしましょう。

○1人3日分の備蓄例（右写真）

- ・水1.5L×6本 計9L
- ・アルファ米、クラッカー、レトルト食品など9食分
- ・毛布
- ・ウエットティッシュ
- ・ティッシュ
- ・懐中電灯



しかし、上記で紹介した備蓄品を一度に準備することは大変です。そこで『**循環備蓄**』という方法をご紹介します。

循環備蓄とは、普段利用している食料品や生活必需品を少しだけ多めに買い、消費と補充を繰り返す備蓄の方法です。

上記の例で言えば、普段から消費する水やクラッカーなどを少し多めに買い、消費した分をまた買うことを指します。このほか、レトルト食品や缶詰なども循環備蓄しやすい食品です。

循環備蓄には、準備の負担が少なく、備蓄品の期限が切れることもないという大きなメリットがあります。ぜひ循環備蓄を実践しましょう！